

全地連「技術フォーラム'98」東京大会報告

会員委員会

技術委員 高橋 克実

「技術フォーラム'98」東京大会の第2日目は以下のような行事内容で行われた。

◎ 特別講演Ⅱ

「岩盤崩壊の地形学的予知」

鈴木 隆介 (中央大学理工学部教授)

◎ 全地連報告

・ 第1部

「地盤の液状化に関する土木研究所との共同研究」

全地連 地盤の液状化抵抗評価調査手法実証実験グループ

・ 第2部

「建設CALS/ECに対する業界標準システムの構築に向けて」

全地連 情報・通信ワーキング

◎ 技術発表会

・ 一般セッション

◎ 展示会

・ 最新の調査試験技術、解析・データベースソフト等の紹介

特別講演Ⅱでは、崩壊予知には発生地点において最も支配的である地形量の把握とともに、他の変数も導入した「地形学公式」の確立を提唱されていた。また、岩盤崩壊の起こる急斜面が斜面発達論でいう現成侵食崖であれば、今後も1000年程度は岩盤崩壊が断続的に発生し続ける。このため、地形に逆らわない建設技術思想も必要である。地質調査技術者には、地形図判読・斜面観察等の技

術向上はもちろんのこと、その思想確立に向けての努力を期待すると述べられた。

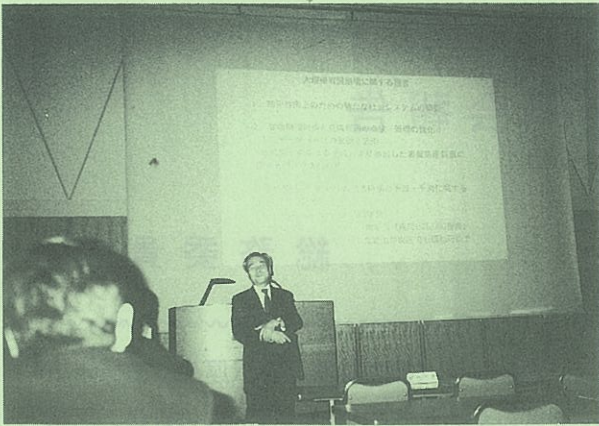
全地連報告第1部では、1995年1月に発生した兵庫県南部地震の地震災害を契機とした耐震基準の強化に伴い、地盤の液状化判定のための地盤調査・試験の見直しに対する全地連の積極的な取り組みが報告された。サウンディング手法・サンプリング手法にくわえてサンプリング試料の品質評価にまで踏み込んだ膨大な実証実験結果であり、今後の液状化強度評価の実務および研究に貴重な報告となった。

第2部では、表題に向けての全地連情報・通信ワーキンググループの取り組み経緯とテーマについて報告された。システム開発の一部を平成10年度中小企業活路調査・実現化事業の補助金で行うことになり、着々とシステム構築に向けた行動をとっていると報告された。

技術発表会は、一般セッション80編の発表が行われた。ボーリング10編、原位置試験6編、斜面5編、地下水11編、調査一般16編、地盤改良・沈下10編、動的特性6編、物理探査16編からなり、各発表会場で熱心な討論が交わされた。

同時開催の展示会では、18の出展団体・企業からなる出展デモ・プレゼンテーションが行われた。各ブースに大勢のフォーラム参加者が取り囲み盛況だった。

なお、今フォーラムでは、2日間の技術発表会で終了した。恒例の見学会は行われなかった。



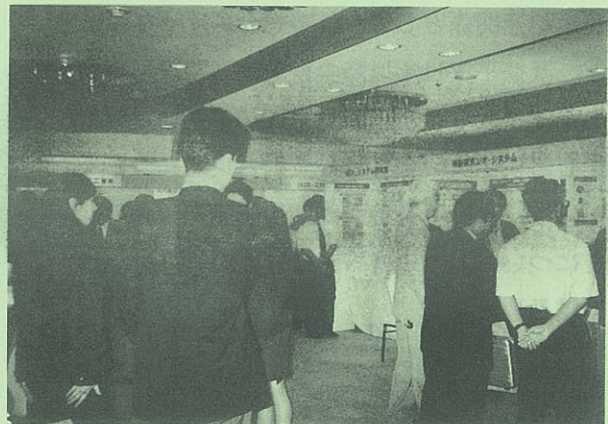
鈴木隆介先生による特別講演Ⅱ



技術発表（一般セッション）



矢島専務理事による全地連報告



展示会スナッフ



技術発表（一般セッション）